

■特集

# 白純老師二十七回忌

白純和尚の人と功績 大田山光真寺を訪ねて



## 光真寺の再建

大田山光真寺三十六世黒田白純大和尚は成寿山善光寺の開祖であり、亡くなられた二世大圓老師の父君にあたります。幼い頃、母親が当時の光真寺の住職雲南愚白老師と再婚し、その弟子となつて修行を積むうちに、愚白老師に目をかけられ光真寺の後継者となりました。

光真寺は昭和の初期に失火し、冬の強風に乗つて、寺だけではなく街までも焼失させてしま



光真寺 俊雄老師

### 光真寺縁起

当寺は、天文十四年（一五四五年）に創建された禪寺で、永平寺並びに総持寺を大本山とする曹洞宗に属し、大田山光真寺と称します。本尊は釈迦牟尼佛。  
御開山は矢板市長興寺第三世僧翁麟道大和尚にて、宇都宮市成高寺の門下であります。  
開基は、大田原家中興の祖である第十三代資清公で居城を中田原水口から大田原龍体山に移すを機に、両親の菩提を弔うため、この地を霊域と定めて七堂伽藍を建立された。寺号は父君の法号「明庵道光」の光と、母君の「真芳妙観」の真とをとり命名したと云われます。

光真寺縁起

ました。もともと大田原藩主の菩提寺であっただけに檀家の数は少なく、再建はなかなか進みませんでした。そこで藩主や家臣だけでなく、多くの檀家を集めるために白純老師はさまざまな事業を進めました。例えば、寺に図書館をつくったり、街に子供会をつくったり、夏になると涼しい気候を利用して、夏期休暇中の一高の学生を預かり指導者をつけて勉強を教えたりもしていたそうです。白純老師の後継者であり現在の光真寺の住職、黒田俊雄老師は「先住さんは仕事が好きで、社会事業を積極的に行っていました」とお話になられます。焼失した光真寺も昭和八年から再建がはじまり、一、二年後には本堂をはじめ徐々に再建が進み、光真寺の中興の祖となりました。

### 子を育て、弟子を育て

白純老師には八人の子どもが、しかし長男は



光真寺三門

幼いころに亡くなってしまったので、次男である俊雄老師が実際には長男のようになっていきます。この俊雄老師の下には、ロサンゼルス、曹洞宗禅センターで修行を積みロサンゼルスの仏真寺を開いた前角博雄老師、その下には一時一般企業に勤めながら僧籍に入った本清氏、会社社長の明義氏、武志老師、そして、東京桐が谷寺の純夫老師、さらに、東京芸大で彫刻を学び現在群馬大学の教授となっている能勝氏も仏像をつくることとその道に入ることになったかかっています。また、子どもたちのうち仏教界に進んだ五人は駒沢大学に学んだことも理由の一つといえるでしょう。

一方では実の子どもだけでなく多くの弟子を育て、慕われていました。そんな白純老師を俊雄老師は「人のことはよく面倒を見ましたが、子どもたちにはあまり口を聞きませんでした。弟子も子どもも面倒を見ている学生もみんな同



光真寺境内

じように面倒を見ていました。おそらく母親が再婚で、再婚するまでや子ども時代にいろいろと苦労したからでしょう」と回想します。「人づくり、寺づくり名人」といわれたのも、その面倒見のよさからでしょう。「母も偉かったと思います。父よりも先に寝たことはなかったのではないのでしょうか」。夫妻で大切にした檀家の皆さん。それが現在の光真寺をつくっているのでしょう。

### 大本山總持寺の再建に

光真寺の復興が落ち着いて来た昭和二十年代後半から白純老師は光真寺を俊雄老師に任せ、曹洞宗大本山總持寺の復興に力を注がれるようになりました。「總持寺の大祖堂を再建するところに、周囲の人々から推挙されて本山の副監院になりました。在任中には大祖堂は完成しませんでした。その基礎はつくったと思います」。その後、總持寺の顧問を長く務めただけでなく、

大本山總持寺復興局長、全日本仏教会事務総長、曹洞宗審事院院長、曹洞宗宗議会議員、駒澤大学駒沢会会長、国際仏教興隆協会常任理事、日本宗教連盟参議、栃木県仏教会会長などの要職を歴任し、全日本仏教会事務総長時代には新興宗教との対話など、宗門を超えた活躍も見られました。

「晩年まで總持寺の顧問をしていたので、光真寺に戻ってくるのは、お祭りとか大きな行事のときだけでした」。要職から退いて大田原に戻り約一年後、昭和五十四年二月四日世壽八十二歳をもって、黒田白純大和尚は遷化せられました。

生前、曹洞宗大教師、黄恩衣、赤紫衣の位を授与せられ、特に大本山總持寺西堂位を追贈されました。

俊雄老師は「兄弟の中でいちばん白純老師に可愛がれていたのが生前の武志老師だった」と



光真寺境内

お話になりました。武志老師はどんな些細なことでも父白純老師に相談をする。「いかなることでも孝道の意志に違わず、敬愛し続け、兄弟の中でも孝道を尽くした第一人者だった」それだけに白純老師の可愛がりようも特別だった。またその生き方は人を育て、人を立て、人を大切に、これこそまさに、白純老師の生き様にオーバーラップしております。

大田原市の市街地の一角に静かに佇む光真寺。

広い境内には大田原藩主の霊廟と小高い丘に広がる墓苑があります。その墓苑には白純老師の好きだったあじさい公園が大田原の街を見守るように位置しています。そして、本堂の前には能勝氏がつくった白純老師の胸像が建っています。



極樂善見寺  
三光院